

ダニエル・カールの

消防団

第11回

鳥根県出雲市

たずねあるき

はじめに

今回の「消防団たずねあるき」は、鳥根県の出雲市にうかがいました。

この「消防団たずねあるき」では、初めての中国地方ですね。もうひとつ日本海側という点でも初めてになります。

出雲と言えば、なんと言っても出雲大社でしょう。現在は本殿修繕のため遷宮中で平成25年の5月にお披露目ということです。ちなみに出雲大社に祭神である大国主命は縁結びの神様として有名ですが、それ以外にも「因幡の白兎」に蒲の穂を使って日本最古の応急手当をした神様でもあるそうで、消防には大いに関係があると思います。

それから個人的には出雲そばですね。オラは大のそば好きなのでそれも楽しみです。

出発した日は秋の観光シーズン中ということもあってか、羽田発の飛行機は満席です。やはり「神話の里」は人気が高いようです。

出雲縁結び空港から出雲市駅へ向かい、まずは駅前で名物の「割り子そば」で腹ごしらえです。その後、消防本部の方にお出迎えをいただき対談場所に向かいます。

出雲は何度か来ていますが、消防団員の皆さんとお話するのは今回が初めてということで、期待が膨らみます。

ダニエル はじめまして、よろしくお願いします。

加村団長 こちらこそよろしくお願いします。遠路はるばる良くおいでくださいました。どうもありがとうございます。出雲においでになったのは初めてですか。

ダニエル 過去にテレビの旅番組などで何度か来ています。でも、出雲市消防団の方とお話しするのは初めてです。消防団のことや出雲のことをいろいろ教えてください。

加村団長 今日は、ベテランから若手まで6人の消防団員が集まっていますから、何でも聞いてください。

ダニエル ありがとうございます。

出雲市消防団

対談の場所は消防本部の3階にある消防団室です。窓から遠くに山並みが見え、その手前には木造のドームとして有名な「出雲ドーム」が

消防団たずねあるき



前列左から加村団長、ダニエル、河原副団長、後列左から小玉部長、亀滝副団長、浜村分団長、勝部団員

良く見えます。それでは、お話をうかがっていきましょう。

ダニエル 出雲市消防団について教えてください。

加村団長 1本部、15方面隊45分団152部の体制です。この10月にお隣の簸川郡斐川町と合併し、団員数は1,918名になりました。

ダニエル 2,000人近いんですね。大きな消防団ですね。市の面積も広いのでしょうか。

加村団長 約624km²あります。そして人口は約175,000人です。

団員の平均年齢は38.2歳で、職業構成はやはりサラリーマンが多く84.3%になっています。

ダニエル 合併があると消防団の運営に難しいこともあるのではないですか。

加村団長 実は平成17年度に平田市、簸川郡の佐田町、多伎町、湖陵町、大社町と合併しました。これらの市町とは昔から「2市1郡」

という会があってお付き合いがありましたし、消防団は地域を守るという同じ目的で活動していますからスムーズに行きました。

ダニエル 出雲というとあまり災害の話を聞かないような気がしますが、こちらの消防団では、特にどのような災害に注意していますか。

加村団長 火災はもちろんですが、斐伊川と神戸川という2大河川があり、過去に水害が発生しておりますので水害に注意しています。昭和39年の水害では43名の方が犠牲になりました。当時、私は高校生だったのですが、自宅の床上20cmくらいまで水が来たことを覚えています。

ダニエル 宍道湖がありますし、海拔があまり高くないということもあるのでしょうか。

加村団長 そうですね、斐伊川というのは宍道湖に流れて行くのですが、「ヤマタノオロチ」の伝説のもとになったとも言われる、いわゆる「暴れ川」なのです。今はある程度整備さ

消防団たずねあるき

れたのであまり水害はありませんが、昔は毎年のように水害があったようです。

ダニエル なるほど、なんといっても水害が心配なわけですね。

加村団長 その後も昭和47年の水害では、今日お着きになった出雲縁結び空港の辺りでは牛が泳ぐくらいの水位になったということです。

火災では、昭和55年に出雲市駅の近くの飲食店街で13軒が焼ける火災がありました。それが最近では一番大きな火災ですね。

ダニエル そうですか30年ほど前ですね。

加村団長 ダニエルさんは、その頃、もう日本に来ていらっしゃるましたか。

ダニエル 山形に着いたのが昭和56年ですから、その1年前ですね。

話で聞いただけなのですが、山形であった「酒田の大火」もわりと近い時期だったのではないのでしょうか。

加村団長 そうですね。わりと近い時期だったような記憶があります。

ダニエル こちらでもその話は有名ですか。

加村団長 有名です。

河原副団長 消防学校で火災防御の戦術を教わったときに、酒田の大火が例に挙げられました。

事務局から 酒田の大火は昭和51年です。

ダニエル そうでしたか。ありがとうございます。私が初めて日本に来た、高校に留学した前の年ですね。

皆さん、他所で起こった災害のことも勉強されているわけですね。しかし、こちらではやはり水害が一番気になるわけですね。

加村団長 そうですね。先ほども言いましたが斐伊川と神戸川という大きな川があります

からね。

ダニエル 地震はどうです。

加村団長 大きな地震については記憶がありませんが、お隣の鳥取県で鳥取西部地震があったときはかなり揺れました。

河原副団長 県内に三瓶山という火山があり、その地層が大山などともつながっているということで、火山活動が活発化すると危険だと言われています。

ダニエル なるほど、地震の可能性もゼロではないということですね。

河原副団長 おっしゃるとおりです。もし震度6や7といった大きな地震が起こると液状化も心配されます。

さすがは消防団の皆さんです。地元で起こり得る災害についていろいろと考えていらっしゃるんですね。

消防団を取り巻く環境

ダニエル 時代が変わることで消防団を取り巻く環境も変わっているとよくいわれます。



加村団長とダニエル

消防団たずねあるき

出雲市ではどうでしょうか。

加村団長 昔は消防署がない地域が多かったこともあって、我々やその先輩の時代は消防団に入るのが当たり前という時代でしたが今はほとんどの地域に消防署があります。消防署があれば火災があっても、まず消防職員の方が消火に向かいます。

同時に、消防団員にはサラリーマンが多いですから、時間帯によっては地域にいないわけです。そうすると消防団の役割も変わってくると思います。

例えば、住宅火災があると昔は消防団が消火から後かたづけまで全部やっていましたが、今は相当数の消防職員がいて、しかも火災発生に備えて待機しているわけです。消防団員が勤務先から詰所に行って出勤するよりはるかに速いです。

ですから出雲市消防団の役割としては、風水害や大きな火災、山林火災といった長期戦になり大量動員が必要な災害に備えるということがメインになると思います。

ダニエル 頂いた資料によると約88人に1人が消防団員ということで、バランスがいいで

すね。

加村団長 数字上はバランスがいいですが、出雲市内でも地域によっては限界集落に近いところもありますので、そういった地域のことも考えて活動していかなければなりません。

ダニエル なるほど、それは日本全体に当てはまることでもありますね。

亀滝副団長 そうですね。小子高齢化が日本全体に起こっているわけですからね。同時に地域のつながりが希薄になっていて、誰が地域を守るのかということも問題になっていると思います。

ダニエル 確かにそうですね。特に集合住宅などでは「隣は何をする人ぞ」という感じが強いといわれますね。

亀滝副団長 何かが起こると誰もが「みんなの絆が大切だ」と言うわけですが、その絆を作るためには、日頃から皆で話し合い、協力し合うことが必要です。そのためには、地域の防災訓練に参加するなどの形で地域の人々と関係を深めていかなければいけないと思います。

ダニエル そうですね。現代の日本人は忙しすぎるのですかね。

加村団長 ただ、東日本大震災以降は、テレビや新聞などの報道が多いこともあって、消防団に対する地域住民の皆さんの意識も変わってきていると思います。

ダニエル そうですね。ボランティアの意識も高まっていると思います。オラも何度か東日本大震災の被災地にボランティアに行っているのですが、関西の若い人によくお会いします。自分が小さい頃に阪神・淡路大震災に遭っているいろいろな人に助けってもらったので恩返しをしたいということで来ているとのことでした、それ



河原副団長の説明を聞きながら

消防団たずねあるき

を聞いてとても心強く思いました。

亀滝副団長 ダニエルさんは全国各地をまわっておられますが、各地でコミュニティの意識が薄れてきていると感じませんか。

ダニエル そういう感じはします。

亀滝副団長 個人的には、昔のようなコミュニティではなくて、新しいコミュニティを作っていかなければならないと思います。そうしないと若い人たちとの関係が希薄になってしまうと思います。

「隣は何をする人ぞ」では、出雲市のみならず日本全体の将来が心配です。

ダニエル 若者の心をつかむというのは難しい問題ですね。

ひとつ言えることは、オラが初めて日本に来た約30年前の日本の方と今の日本の若い方は違っているということです。

わずか30年でもかなり変わって来ています。

亀滝副団長 私もそう思います。

ダニエル 30年前に来た時は、日本の高校に留学生として来ました。そして、日本のことは何でもかんでも勉強しよう、取り入れていこうと意気込んでいました。

でも、どうしてもついていけなかったのが運動部の先輩と後輩の関係です。柔道部に入ったのですが、ものすごい縦社会でアメリカの高校の運動部とはまったく違うものでした。

できる人（先輩）ができない人（後輩）に教えるというシステムはすばらしいと思いますが、ちょっと方向がずれるといじめになってしまいます。そういうこともあって、今の若い人は運動部のような縦社会などを嫌う方向にあると思います。

今は古い時代と新しい時代の板ばさみになっ

ている時期なのかもしれません。

亀滝副団長 なるほど。それで若い年代の人たちはコミュニティを作ろうと思っているのでしょうか。

ダニエル 若い人たちにもそれなりにコミュニティはあると思います。ただ、コミュニティの形が違うと思います。また、若い人たちは同じコミュニティの中にも、自分の個性は前面に出したいと思っているのではないのでしょうか。

日本では、どんな組織も縦社会になりがちな気がします。それが若い人に敬遠されているのではないのでしょうか。

でも消防団は縦の命令系統がなければ動きませんよね。

亀滝副団長 おっしゃるとおりです。

加村団長 縦の命令系統がなければ命に係わります。

ダニエル 縦の命令系統で動くという組織の形を守りながら、個性を活かすような人間のグループにするべきだと思います。

現場活動では縦のつながりで動くのは当然ですが、例えば飲み会では全員が横のつながりで、友人とのつきあいのような感じで参加するという形がいいと思います。

今日は若い方にも来ていただいています。どうですか、若い消防団の仲間は多いですか。

勝部団員 それなりにいます。

ダニエル それなりにですか。(笑)

加村団長 勝部団員は、今年、操法大会の選手を務めました。

ダニエル どうでした。

勝部団員 市の大会で優勝することができました。

消防団たずねあるき

ダニエル 火消しのテクニックで優勝したわけですね。それはおめでとうございます。

ダニエル 平均年齢38歳ということですが、それよりはずいぶんお若いですよ。もっと若い人に入ってもらいたいですか。

勝部団員 そうですね。入ってみたいです。

ダニエル 女性の方はどうですか。

小玉部長 女性消防団員は現在9名です。

ダニエル 9名、全部ですか。

小玉部長 はいそうです。

ダニエル それは、全然足りませんね。

一同 (笑)

加村団長 今26名を目標に募集をしています。

ダニエル これから増やしていこうということですね。大いに期待しています。

小玉部長 女性が増えると雰囲気も変わるでしょうし、各地の女性消防団員が女性ならではのきめ細かい気配りが生かされる分野で活躍しているというお話をよく聞きますよ。

加村団長 女性消防団員には、幼稚園などでの防火啓発活動で活躍してもらいたいと思っています。そのためにも、もっと数を増やしたいですね。

ダニエル こちらの消防団は、伝統を重んじるというか、日本男児というか、そういう色合いが強いのですかね。

一同 (笑)

加村団長 そんなことはないと思います。ただ、各分団とも、なんとかやっていますので、必要性を強く感じていなかっただけだと思います。

ダニエル そうですか。今後に期待しまし

よう。

加村団長にお聞きしますが、消防団長としてどんな苦勞がありますか。

加村団長 苦勞というのはあまり感じません。団長を引き受けたからには、当然、使命感がありますから。

ダニエル でも、大変なこともあるのではないですか。

加村団長 そうですね。出雲市消防団には45の分団があり、それぞれに独自の歴史と地域性があります。先ほど、現在の消防団の役割についてお話ししましたが、まだ、昔風の「消防団がすべてをやる」という考えを持っている団員や住民がいる地域もあって、「消防署が充実した現在の消防団の役割はそうではない」ということを説明するのに時間がかかったことがあります。

ダニエル なるほど、それを説得しなければならぬわけですね。

加村団長 はい。そういう考えを持った団員の消防団活動に対する意欲は大いに買いますが、消防署と消防団では装備も訓練も違いますので、意欲に実力が伴っていないということを伝えなければなりません。

ダニエル なるほど。意欲を大切にしつつも、言うべきことは言うということですね。それは大変ですね。

S-KYT研修

出雲市では、昨年度に続いて、今年度もS-KYT研修を、それも発展させて実施されるそうです。そのお話をうかがいましょう。

消防団たずねあるき



S-KYT研修（指差し唱和）



各部に配布される S-KYT標語ののぼり

ダニエル 皆さん S-KYT研修を受けられましたよね。いつから始めたのですか。

加村団長 最初に実施したのは10年以上前です。それで、今年の3月に久しぶりに実施しました。私は団長になって、S-KYTをもっと取り入れようと考えました。

ダニエル それはまたどういうことで…

加村団長 私はかつて鋳物工場に勤めていました、労災の担当をしていました。30年ほど前のことになりますが、私の勤めていた会社では労災が多いということで労働基準監督署から注意を受けました。そこで、私自身も受けましたが、社員に中央労働災害防止協会の KYTの研修を受けさせました。

そして、朝礼の際などに安全に関する項目について皆で指差し呼称や指差し唱和を実施していくと労災が減ったのです。

ダニエル そういうことの大切さを身をもって感じられたのですね。

加村団長 はい。災害を減らすのは、危険とそれを回避することを意識することなのだと思いました。したがって皆に意識付けすること

が重要だということがわかりました。

ダニエル なるほど、そういうことですか。

加村団長 出雲市消防団でも、主に操法訓練の際に公務災害が起こっているのです、その対策として S-KYT研修を11月に4回実施する予定です。

ダニエル ここに S-KYT研修の標語がありますね

加村団長 その標語を書いたのぼりを152ある全ての部に配布し、日々の活動で団員が集まったときには、作業をする前に必ず指差し唱和をすることで、意識付けをしていこうと考えています。

ダニエル それはいいですね。今日お集まりの皆さんの中に S-KYT研修を受けられた方はいらっしゃいますか。

亀滝副団長 私も受講しました。

ダニエル 勉強になったことはありましたか。

亀滝副団長 とても大事なことだと感じました。特に消防団の幹部は現場に出た時に、部下に対して的確な指示をしなければなりません。

消防団たずねあるき

その際には、部下の安全について配慮しなければなりませんから、この研修の重要性を痛感しました。

加村団長 浜村分団長もこの3月のS-KYT研修を受講しています。

ダニエル いかがでしたか。

浜村分団長 分団で活動する時の心構えとして大事なことを学んだと思います。

ダニエル やはり、S-KYT研修を受けると、危険を予知するということが意識されますか。

浜村分団長 そうですね。自分が意識するようになるのと同時に自分が学んだことを分団員に伝えることができます。

加村団長 今年度は、S-KYT研修を受講して、各部で指差し呼称や指差し唱和を実践することに取り組んでもらって、来年度以降はS-KYTに使用するイラストシートを団員から募集したいと考えています。

ダニエル それはいいですね。

加村団長 もうひとつS-KYTには気長に取り組む必要があると思います。安全というものは日々の意識の積み重ねが重要ですから、出雲市消防団の全団員がその意識を持てるようになるまで、粘り強く取組んでいきたいと思っています。

ダニエル 小玉部長も受講されたのですか。

小玉部長 はい。自分自身の意識を高めるためには、毎日努力しなければならないですが、この研修も非常に大切だと感じました。

ダニエル 以前、女性消防団員の方から日常生活にも役立つとお聞きしましたが…

小玉部長 私も職場や家庭で、例えば電気のスイッチを切るときなどに自然に指差し呼称をするようになりました。

ダニエル 身についてますね。安全確保につながることでしょ。

S-KYT研修を3月に10年位ぶりに実施され、今年度4回実施されるということですが、今後はどのような予定ですか。

加村団長 新たに部長、班長などの階級に就任した団員には、必ず受けさせたいと思います。ですから、毎年実施したいと思っています。

ダニエル 先ほど言われたとおり、気長に粘り強くということですね。

出雲市消防団員として

これも恒例ですが、皆さんが消防団員になったいきさつをお聞きしましょう。

ダニエル 今日は、消防団のベテランから若手までお集まり頂いていますが、消防団に入団したいいきさつを教えてください。

亀滝副団長 私の場合は、隣家の方が消防団員でして、すでに15年ほど勤めておられたので退職することになりました。ある日の晩に家に帰ると消防団の制服が置いてあって入団することになりました。

ダニエル 大体昔はそうだったんですかね。前回の須坂市でも似たようなお話をききましたね。

加村団長 若手はちょっと違うかもしれません。

ダニエル そうですね。若手の方はどうですか。

勝部団員 自分から進んでやろうとは思っていませんでしたが、自分の住んでいる地域の分団の方から誘われて入団することになりました。

ダニエル 何歳くらいのときですか。

消防団たずねあるき

勝部団員 2年前、31歳の時でした。

ダニエル 意外に遅いですね。そろそろお前の出番だぞということですね。それで、制服は置いてありましたか。

一同 (笑)

勝部団員 それはありませんでした。

亀滝副団長 私の場合はUターンして出雲に帰ってきたので、入団したのは33歳の時でした。

ダニエル そうなんですか。そして先輩の代わりに入団したということですね。

亀滝副団長 私と同年代でずっと地元に住む人は20歳くらいで入団していましたけどね。

ダニエル 入団年齢もいろいろあるんですね。

加村団長 そうですね。特に郊外では次の人を見つけてから退団するという形が多かったですね。若い人を見つけて「次はお前に頼む」ということだったのですが、今、郊外にはその若い人がいなくて困っています。また、中心部にはある程度若い人がいるのですがなかなか入団してくれません。

ダニエル そうですか。難しいですね。

それで勝部団員は入団する前には消防団にどんな印象を持っていましたか。

勝部団員 正直、あまり良い印象は持っていませんでした。

一同 (笑)

勝部団員 でも入団してみると楽しいです。

ダニエル 仲間が増えて…

勝部団員 そうですね。

ダニエル 浜村分団長はいかがですか。

浜村分団長 入団したきっかけは、ご近所で消防団員をしておられた方が「今度、自分が分団長になるので、自分の下で団員をやってもら

えないか」と誘われて入団することになりました。24歳の時でした。

亀滝副団長 そうやって入団してくれればいいのですが、何回頼みに行ってもダメな場合もあるのです。

浜村分団長 今は、地元の若い人の会で順番を決めて、入団してもらうようになっています。

ダニエル 入る前の印象はどうでしたか。

浜村分団長 訓練を見たことはありましたが、消防団についてあまり知りませんでした。

ダニエル そうですか。

次に小玉部長をお願いします。

小玉部長 平成13年、消防団女性部ができる時に、地元の分団の推薦を受けて入団しました。その時はなかなかできない経験ができるのではないかと思います。

ダニエル チャレンジャーですね。身内の方に消防団員がいたのですか。

小玉部長 地元の分団長をはじめ、消防団員の知人は何人かいましたが、身内にはいませんでした。

ダニエル 推薦を受けてというのは珍しいですかね…

小玉部長 私は平成7年に女性の消防操法の全国大会に出場したことがありまして、地元の分団の方もそれをご存知で推薦してくれたのだと思います。

ダニエル 女性消防団員は男性と同じ活動をしているのですか。

小玉部長 私たちは、災害現場には出動しません。主に予防、啓発、応急手当の普及や広報などの活動をしています。

ダニエル 消火の訓練などはやらないのですか。

消防団たずねあるき

小玉部長 4年前にも操法の全国大会に出場しました。

ダニエル なるほど訓練はしているわけですね。では、大規模な災害があれば出動することになるかもしれませんね。

小玉部長 団長の命令があれば出動します。

ダニエル 女性の方が「負けるものか」という気持ちが強いような気がします。

小玉部長 「男性にできて女性にできないことはない」という気持ちは持っています。

ダニエル そうですか。

それでは河原副団長をお願いします。

河原副団長 私の場合は父親も消防団員で分団長をしていましたので家系のようなものです。

一同 (笑)

ダニエル 消防団員としての遺伝子を持っていたわけですね。

河原副団長 そうですね。いずれやらなければならないと思っていました。

それと、消防団員になることで社会に認められるという時代、地域で育ったということもあ

りました。

ダニエル 消防団に入って付き合いが広がったという話を聞きますがやはりそうですか。

河原副団長 そうです。そしてそれは楽しい事です。

私は農業をしていますが、いろいろな職業の人と付き合うことでいろいろな事を知ることができますし、コミュニケーションが深まり、人脈を広げることができます。

ダニエル ちょっと変な話ですが、息子の嫁さん探しなんていうときにも、そういう人脈が役立ちそうな気がしますね。

河原副団長 私は旧平田市の出身なのですが、以前、消防団で企画して若い消防団員と独身女性の出会いの場を作ったことがあります。

ダニエル 縁結びですね。

河原副団長 新聞に広告を出して参加者を募集し、男女50名ずつが参加しました。

ダニエル いわゆる「合コン」ですね。

河原副団長 そうです。当初は男女35名ずつぐらいでと思っていたのですが思いのほか多く



対談風景

消防団たずねあるき

の応募がありました。

ダニエル そりゃそうですね。集まるでしょう。

河原副団長 その時は5組のカップルができて、そのうち1組がめでたくゴールインしました。

ダニエル そういうことも、消防団にいるいろんな人材がいて、深いコミュニケーションがあるからこそできることでしょうね。

では、加村団長をお願いします。

加村団長 私は昭和49年まで青年団をやっていたんですが、ある日、近所の方がやってきて「もう青年団は辞めて、今度は消防団だ」と言われました。当時は青年団の次は消防団という順番があったのです。

先ほど河原副団長が言ったように「消防団に入って初めて一人前」という地域で私も育ちました。ですから、むしろお願いして消防団に入れてもらうという雰囲気でした。今とは全然違いましたね。

ダニエル 今は団員の確保が大変なようですからね。

新入団員の勧誘はどのようにしているのですか。

加村団長 ホームページや広報紙でも募集をしていますが、各分団、各部の地域ごとにそれぞれの方法がありますから、基本的には各地域に任せています。でも、若者が極端に少ない地域もありますから、今後は、部を再編するなどの方法も考えていかなければならないかもしれません。

また、OB団員の再入団を図って行きたいと考えています。

先ほども申し上げましたが、風水害や山火事

など大量動員が必要な災害にこそ消防団員が必要なわけです。例えば、山間部で風水害が発生したら、市の中心部に団員がたくさんいても、道路の事情などで現場に行かれないかもしれません。ですから、OB団員に機能別消防団員になってもらって、大災害の時には出動してもらおうということで対応するという方法を考えています。

ダニエル そうすると今よりも、もっと団員数が増えるわけですね。

加村団長 そういことになると思います。

ダニエル 団長もいろいろと考えていらっしゃるんですね。組織をどのように上手く運営していくかということですね。皆さんの意見も聞きながら…

加村団長 市域が広いですからね。そしてその中の地域ごとに意見が違いますしニーズも

出雲市消防団広報紙「まとい」

消防団たずねあるき

違いますからね

ダニエル 会社を経営しているような感じですね。

なんか元気な消防団という感じがしますね。もうちょっと女性消防団員が増えればなあ…

加村団長 今度、いらっしゃる時には30人くらいにしておきます。

一同 (笑)

ダニエル それと大合コンを定期的にやったらどうでしょう。

一同 (笑)

最後に、これからのことや消防団の魅力についてうかがいましょう。

ダニエル ところで皆さんは消防団のどんなところに魅力を感じますか。また、今後、消防団をどうしていきたいですか。

加村団長 若い人からどうぞ。

勝部団員 やはり、消防団に入らなければ出会えなかった人に出会えたことが魅力です。今、ともに活動している人たちとも、消防団に入らなければ、出会えなかったでしょうから。

ダニエル そうですよ。きっと人間はいろいろな人に出会いたいからいろいろな団体に所属するのでしょう。

浜村分団長はいかがですか。

浜村分団長 消防団活動を自分が一生懸命やると、地域の人々が感謝してくれます。努力が報われるというか、そういうことに魅力を感じています。ですから、今後も地域のために、自分のできることはできる限りやっていきたいと思っています。

ダニエル 頼もしいですね。

では小玉部長をお願いします。

小玉部長 消防団員として10年間勤めて思うのは、消防団に入団しなければできなかった経験ができたということについて魅力を感じるということです。独り暮らしのお宅の防火訪問などを行っている自分も社会の役に立っているのだということを感じることができます。

ダニエル 女性消防団員の仲間を増やして、もっともっと活躍してください。

亀滝副団長はいかがですか。

亀滝副団長 やはり、地域の人役に立っている、頼られている、ということがありますね。それと消防団員という組織が一つの命令系統のもと素直に動き、強い絆で結ばれているということにも魅力を感じています。

ダニエル そうですか。これからもがんばってください。

河原副団長をお願いします。

河原副団長 今後のことと言えば、やはり若い団員を増やすということですね。平均年齢が高くなっていることでは我々が足を引っ張っています…

一同 (笑)

河原副団長 若い団員が増えれば、機動力も高くなるでしょうし、例えば献血に協力するなど、消防団としてもっと役に立てることがいろいろあると思います。同時に若い人の考え方や意見も聞いて、それを消防団の運営に反映させていけば活性化が図られると思います。

加村団長 私の近所に熊本から転入された方がいて、消防団に入団したことで地元の人たちと仲よくなることができたと言っています。これも消防団の良いところだと思います。

昔のように、青年団や婦人会があるという時

消防団たずねあるき

代ではありませんから、消防団は地域の担い手となって、各種の行事などでも地域を引っ張って行かなければならないと思います。

ダニエル そうすることが、消防団全体にもきっとプラスになりますよね。いいですね。

本日は、ありがとうございました。

楽しい時間は過ぎるのが早いですね。

いつも同じことを言いますが、もっともっとお話ししていたかったです。

消防団の役割

消防は地域の防災を担うわけですが、出雲市消防団では、その中での役割を明確にしています。

そして同じ市の中でも、地域ごとに違う意見やニーズに応じていくためには、本当の地元の分団、部といった単位での活動を大事にするということでした。それこそが地域の防災力を上げるということなのでしょう。なぜなら、団長のお話にあったとおり、消防団員数が多くても、

消防の設備や施設が整備されても、何らかの理由で道路が分断されてしまえば、頼りになるのは地元にいる消防団員だからです。

広い市域を持ち2,000人近い消防団員を擁する出雲市消防団では、そのような方法で災害に対応していくということです。

消防団という組織の運営が決して楽ではない時代ですが、出雲市の安全を守るために様々なことを考えている姿には、頭が下がります。

終わりに

出雲市消防団は、市内の各地域の特性を踏まえ、それを管轄する分団の活動を大事にする複合的な消防団です。

それぞれの伝統に基づく活動に新しい考え方を取り入れ、これからも発展し続けて欲しいと思います。

出雲市消防団の皆さん、これからも出雲市の地域防災の本当の要としてがんばってください！



対談風景2